

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画

～綾の照葉樹林プロジェクト～

令和7年度 事業報告書



20周年記念報告会（令和8年1月24日）

綾の照葉樹林プロジェクト連携会議

九州森林管理局・宮崎県・綾町

（公財）日本自然保護協会・（一社）てるはの森の会

12月～1月

記念植樹



照葉樹林の復元

「復元手法の検討」の中で記念植樹を行いました(国)

令和5年度から試行的な取組としてを進めてきました。照葉樹林復元のためのどんぐり苗の育苗事業で、令和7年度は川中キャンプ場近くの国有林に綾小学校6年生(代表13名)、綾中学校2年生及び3年生(代表21名)による記念植樹を実施しました。植樹ではこれまでの取組を振り返り、しっかりと育つよう丁寧に植えました。

12月～3月

獣害防除作業

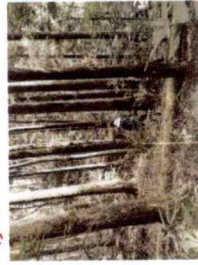


県有林造成事業(獣害防除)を行いました(県)

25世紀の森に植栽されたカヤやシカヤやウサギの食害から守るため、獣類が嫌がる匂いの薬剤(忌避剤)をカヤの幹に塗って獣害予防を行いました。山の食べ物が不足する冬場(12月～3月)に実施し、散布は年2回で、1回目と2回目の散布期間を1ヶ月以上空けています。

2月28日

ボランティア林床調査



調査・研究

ボランティア林床植生調査を実施しました!(N・J・T・町)

2月28日にボランティア7名の参加により、川中で林床植生調査を行いました。2019年に間伐、防鹿柵の設置、モニタリング調査を同時に開始した所です。防鹿柵内7年目の再調査及び隣接する自然林に新たなプロットを設置しました。胸高1.3mの幹体の種数は、2種から8種、幹体数は、16から32個体へ増加していました。自然林が隣接し種子散布が期待されますが、防鹿柵の効果がはっきりわかった調査になりました。

5月11日&1月25日

照葉樹林散策



環境教育

照葉樹林散策を2回実施しました!(全)

「綾の照葉樹林プロジェクト」の20周年記念イベントとして5月11日(日)に、新緑の川中の森散策を、参加者14名で行いました。綾プロジェクト20周年報告会の翌日、1月25日(日)に見本林(県有林・25世紀の森、町有林見本林、国有林見本林)を廻りながら、県道26号(綾照葉大吊橋～川中自然公園)まで、参加者24名と散策しました。

1月24日

報告会の実施



20周年記念報告会を開催しました(全)

情報発信

綾町公民館文化ホールにおいて、綾の照葉樹林プロジェクト20周年記念報告会を開催し、これまでの取組における成果と課題の報告をしました。ネイチャーポジティブに関する基調講演や、今後の綾プロジェクトの方向性についてのパネルディスカッション等を行い、綾町内外から約200人が参加しました。

4月～3月

地域づくり
ワーキンググループ



森と共生した地域づくり

「おとなの山学校」ツアーを実施し、郷土料理本を作成しました!

5月18日に里山散策体験ができる「おとなの山学校」一般向け定期ツアーと、10月9日に留学生向けツアーを実施しました。また、今年度は初めて料理教室を3回実施し、「綾ふるさとの味」といいう、郷土料理本を作成し、料理教室参加者に配布しました。綾の郷土料理の伝承に役立てたいです。今年度後半は、自然共生サイト「東洋紡 綾の森」の活用状況の検討会を実施しています。

4月～3月

綾ユネスコエコパーク活動



綾ユネスコエコパーク関連の活動を報告します!(町)

綾ユネスコエコパークエリアの核心地域と緩衝地域が、綾の照葉樹林プロジェクトエリアにあたることから、綾町ではユネスコエコパーク関連事業と連携して綾プロジェクトを進めています。

主に地元小中学校の環境学習をはじめ、県内の学校の校外学習や県内外からの祝祭受け入れを行っています。豊かな自然を活かし、ユネスコエコパークに登録された日本最大級の綾の照葉樹林の貴重さや綾プロジェクトの大切さなどを紹介しています。

令和7年度 活動実績 201件、うち綾プロジェクト関連は42件でした。

- ・祝祭・外部対応 60件 (5件)
- ・主催イベント・講座等の開催 46件 (5件)
- ・他者主催イベント等への参加 1件 (0件)
- ・取材対応 3件 (1件)
- ・調査・作業 11件 (4件)
- ・会議・打ち合わせ等 80件 (27件)

※国は九州森林管理局・宮崎森林管理署、県は宮崎県、町は綾町、Nは日本自然保護協会、Tはてはるの森の会
全は連携会議各機関

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）
令和7年度 事業報告書

目 次

I	実施項目別スケジュールと令和7年度実施事業一覧	1-2
II	令和6年度 事業報告（※項目順に実施した事業名（報告書記載者名）を掲載）	
1	項目：綾の照葉樹林プロジェクトの推進のための基盤整備	
2	項目：照葉樹林の保護・復元 ― 照葉樹林の保護と復元等を推進するための計画的・順応的管理を実施	
2-1-①	綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（連携：九州森林管理局）	3
2-2-①	プロジェクト事務局運営事業（連携：九州森林管理局・綾町）	4
2-2-②	電波通信環境改善事業（綾町）	5
2-3-①	復元手法の再検討（連携：九州森林管理局）	6
2-3-②	照葉樹林復元のためのシカ被害対策（連携：九州森林管理局）	7
2-4-①	人工林から照葉樹林への復元作業（九州森林管理局）	8
2-4-①	人工林から照葉樹林への復元作業（宮崎県）	9
2-4-①	人工林から照葉樹林への復元作業（綾町）	10
2-4-③	綾プロエリア等における鳥獣捕獲事業（九州森林管理局）	11
2-5-②	照葉樹林復元の動態モニタリング調査（九州森林管理局）	12
2-6-①	照葉樹林復元ボランティア作業の実施（九州森林管理局）	13
3	項目：照葉樹林の調査研究 ― 照葉樹林を適切に保全管理するための調査研究を推進し反映する	
3-4-①	市民参加型の調査研究の実施（日本自然保護協会）	14
4	項目：照葉樹林を通した環境教育 ― 環境教育を推進する	
4-1-①	森林環境教育プログラムの検討とエリアの見直し (連携：九州森林管理局)	16
4-1-②	照葉樹林に親しむイベントの開催（てるはの森の会）	17
4-2-②	路網整備（宮崎県）	9
4-2-②	遊歩道整備ボランティア（てるはの森の会）	18
4-3-①	環境学習事業（てるはの森の会）	19

5 項目：プロジェクトの情報発信 ― 情報発信及び支援の輪の拡大活動

5-1-① 会員情報（てるはの森の会）	20
5-1-③④ 普及啓発事業（てるはの森の会）	21
5-1-④ ホームページ等による情報発信（九州森林管理局）	22
5-1-⑤ 綾プロ20周年事業の計画（連携：九州森林管理局）	23
5-1-⑥ 事業説明会の実施（連携：九州森林管理局）	24

6 項目：照葉樹林と共生した地域づくり ― 自然と共生した地域づくりへの貢献を推進する

6-1-① 地域づくりワーキング事業補助（綾町）	25
6-1-② 照葉大吊橋 森の驛運営事業（てるはの森の会）	26
6-2-① 綾町森林づくりビジョン策定（綾町）	27
6-3-① 綾町森林・林業関係検討会「綾プロ 自然と共生する地域づくり支援事業」（九州森林管理局）	28
6-3-① ユネスコエコパークとの連携（綾町）	29
6-3-① 綾 BR 専門委員会、地域連携協議会への出席。綾町 BR 運営会議における実施計画策定支援（日本自然保護協会）	30

7 項目：生物多様性の保全管理 ― 生物多様性の保全管理を推進する

7-1-① 生物多様性保全に配慮した森林整備（九州森林管理局）	31
7-1-① 県営林造成事業（宮崎県）	9
7-2-② 綾生物多様性地域戦略 実践支援事業（綾町）	32

Ⅲ 令和7年度 綾の照葉樹林プロジェクト社会的活動まとめ

33

Ⅳ 令和7年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧

34

Ⅴ 令和7年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連新聞記事

35

実施項目別スケジュール（令和５年度～９年度）と令和７年度実施事業一覧
重点目標：①20周年記念事業の実行 ②復元手法の検討

実施項目別スケジュール						令和7年度事業報告			
項目		課題	行動内容	実施項目	主担当	記載者	事業名	連携先	頁
1	協働の体制づくり	綾の照葉樹林プロジェクトの推進のための基盤整備	中長期目標と目標設定の見直し	目標を再確認し必要に応じて見直しを検討する	全				
2	照葉樹林の保護・復元	照葉樹林の保護と復元等を推進するための計画的・順応的管理を実施	1 綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（以下、計画書という）の見直し	必要に応じて内容の見直しを検討した上で計画書を策定	全	国	綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画	全	3
			2 計画書に基づき適切な保安全管理を行う	① 連携者間における進捗状況等の共有	全	国	プロジェクト事務局運営事業	全	4
				② 管理施設（案内板・標識等）の整備	全	町	電波通信環境改善事業	全	5
			3 シカ被害対策を含む効果的・効率的な復元手法を確立する	① 復元手法を再検討する	全	国	復元手法の検討	全	6
				② 川中神社周辺におけるスギ人工林の照葉樹林復元に向けた効果的なシカ対策と新たな手法による間伐及び種子採取・播種等の試行と実行への移行	全	国	照葉樹林復元のためのシカ被害対策	全	7
			4 計画的な施行を実施する	① 計画的な間伐の実施（国有林・県有林・町有林）	国・県・町	国・県・町	人工林から照葉樹林への復元作業	－	8 9 10
				② 復元見本林の整備	全				
				③ 有害鳥獣捕獲（国有林、県有林、町有林）	国・県・町	国	綾プロエリア等における鳥獣捕獲事業	－	11
			5 復元効果を評価する調査研究を推進する	① 間伐後の復元状況を評価調査実施（国有林、県有林、町有林）	国・県町・NJ				
				② データの収集、解析、復元方法へのフィードバック方法の確立	国・県町・NJ	国	照葉樹林復元の動態モニタリング等	－	12
			6 市民のプロジェクトへの参加を推進する	市民参加型の復元作業の実施	国・町・T	国	照葉樹林復元ボランティア作業の実施	T	13
3	照葉樹林の調査研究	照葉樹林を適切に保安全管理するための調査研究を推進し反映する	1 既往の調査・研究成果に基づき計画的に調査を実施する	調査・研究成果に基づき毎年度計画的な調査（モニタリング）の実施	国・県・町				
			2 モニタリング調査の実施	保護林・緑の回廊に関する調査	国				
			3 調査・研究成果の共有化及びデータベースを構築する	① GISを活用した林小班ごとの復元に必要な情報の整備	国・NJ				
				② 調査・研究成果の共有化・データベース化	国・NJ				
			4 市民のプロジェクトへの参加を推進する	市民参加型の調査研究の実施	町・NJ・T	NJ	市民参加による自然林の復元調査及び自然林の調査	国・町・T	14

実施項目別スケジュール（令和５年度～９年度）と令和７年度実施事業一覧
重点目標：①20周年記念事業の実行 ②復元手法の検討

実施項目別スケジュール					令和7年度事業報告					
項目		課題	行動内容	実施項目	主担当	記載者	事業名	連携先	頁	
4	照葉樹林を通じた環境教育	環境教育を推進する	1 エリアの見直しと既存資源の活用・教育プログラムの検討	① 環境教育エリアの見直しと既存資源の掘り起こしの検討と有効活用	全	国	森林環境教育プログラムの検討とエリアの見直し	全	16	
				② 環境教育プログラムを検討し、試行的に実施	全	T	照葉樹林に親しむイベントの開催	町	17	
			2 大吊橋周辺、川中自然公園、大口遊歩道等の活用方法を検討する	① 環境教育に関する活用方法の検討	T					
				② 必要なルート整備を実施	県・T	県	路網整備	—	9	
						T	遊歩道整備ボランティア作業	県	18	
				③ 崩壊した九州自然歩道について新たなルートや歩道復旧を検討する	県					
			3 ガイドボランティアを養成し、市民の理解を深める	① ガイドボランティア事業の実施・養成	T	町	照葉樹林ガイドボランティア事業補助	T		
				② ガイドを通して市民に綾プロを理解してもらうためのプログラム作り	T	T	環境学習事業 照葉樹林ガイドボランティア事業	—	19	
	③ 森林セラピーとの連携体制の検討	町・T								
5	プロジェクトの情報発信	情報発信及び支援の輪の拡大	1 市民や企業など広く一般にプロジェクトの内容を知ってもらい、参画や会員の拡大を図る	① サポーターの募集を行い、会員を増やす	全	T	会員情報	全	20	
				② パンフレット、リーフレットの作成及び配布	全					
				③ ニュースレター、報告書の作成及び配布	全	T	普及啓発事業	全	21	
				④ HPの作成及び更新	全	国	ホームページ等による情報発信	—	22	
						T	普及啓発事業	全	21	
				⑤ フォーラムの実施	T	国	綾プロ20周年事業の計画	全	23	
				⑥ 事業説明会の実施	全	国	事業説明会の開催	全	24	
6	照葉樹林と共生した地域づくり	自然と共生した地域づくりへの貢献を推進する	1 市民との協働で実施する運営体制を構築し、市民が積極的に綾プロに参画できるようにする	① 地域づくりワーキングの設置及び運営	町・T	T	地域づくりワーキング事業補助	町	25	
				② てるはの森の驛の活用方法を検討し、それに応じて必要な整備	町・T	T	照葉大吊橋 森の驛運営事業	町	26	
			2 綾町の他の事業との連携のあり方を検討し、実行計画を策定する	照葉樹林都市・綾の森林ビジョン策定	町	町	綾町森林づくりビジョン策定	国・県	27	
			3 綾プロと綾ユネスコエコパークの連携を推進する	ユネスコエコパークを推進する計画を策定し、実践する	国・県・町	国・町	ユネスコエコパークとの連携	全		
						国	綾町森林・林業関係検討会「綾プロ 自然と共生する地域づくり支援事業」	県・町	28	
						町	ユネスコエコパークとの連携	—	29	
			NJ	綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援	町	30				
7	生物多様性の保全管理	生物多様性の保全管理を推進する	1 生物多様性保全の配慮	生物多様性保全に配慮した施策の実施	国・県	国	生物多様性保全に配慮した森林整備	—	31	
						県	県営林造成事業	—	9	
			2 生物多様性地域戦略を推進する	① 綾町の里山周辺の植生調査	町・NJ					
② 生物多様性地域戦略の実施	全	町		綾生物多様性地域戦略 実践支援事業	NJ	32				

事業名	綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画(継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	2-1-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	本計画の期間（令和5年4月1日から令和10年3月31日）は、綾の照葉樹林プロジェクト推進協定の期間と合わせて、おおむね5年を目途に必要な見直しを行う。		
照葉樹林の保護と復元等を推進するための計画的・順応的管理を実施するため、連携者間における進捗状況等を共有し、必要に応じて見直しを行うこととしているが、令和7年度においては見直し等はなかった。			

事業名	プロジェクト事務局運営事業(継続)	実施主体	九州森林管理局 綾町																		
項目-行動計画- 実施項目	2-2-①	連携先	連携会議各機関																		
事業概要 (目的)	各種会議等における、連携者間との連絡調整・問合せ対応、事業の企画などを行う。																				
【連携会議】 第 42 回 令和 7 年 7 月 24 日 主な協議内容 (1) 令和 6 年度事業報告書 (2) 令和 7 年度事業計画 (案) 第 42 回 令和 8 年 3 月 16 日 主な協議内容 (1) 令和 7 年度 綾プロ取り組み状況報告 (案) (2) 令和 8 年度事業計画 (案) 【連絡調整会議】 第 1 回 令和 7 年 5 月 28 日 主な協議内容 (1) 第 42 回連携会議について (2) 20 周年記念事業について (3) 復元ボランティア作業について 第 2 回 令和 7 年 7 月 24 日 主な協議内容 (1) 第 42 回連携会議について (2) 20 周年記念事業について 第 3 回 令和 7 年 10 月 6 日 主な協議内容 (1) 20 周年記念事業について (2) 復元ボランティア作業について 第 4 回 令和 7 年 11 月 7 日 主な協議内容 (1) 20 周年記念事業について 第 5 回 令和 8 年 2 月 26 日 主な協議内容 (1) 20 周年記念事業について (2) 第 43 回連携会議について																					
		<table><tr><td colspan="2">連携会議 各機関担当者の数 *連携会議名簿による</td></tr><tr><td>九州森林管理局</td><td>4</td></tr><tr><td>宮崎森林管理署</td><td>1</td></tr><tr><td>宮崎県</td><td>3</td></tr><tr><td>綾町</td><td>5</td></tr><tr><td>日本自然保護協会</td><td>3</td></tr><tr><td>てるはの森の会</td><td>3</td></tr><tr><td>学識経験者</td><td>1</td></tr></table>		連携会議 各機関担当者の数 *連携会議名簿による		九州森林管理局	4	宮崎森林管理署	1	宮崎県	3	綾町	5	日本自然保護協会	3	てるはの森の会	3	学識経験者	1		
連携会議 各機関担当者の数 *連携会議名簿による																					
九州森林管理局	4																				
宮崎森林管理署	1																				
宮崎県	3																				
綾町	5																				
日本自然保護協会	3																				
てるはの森の会	3																				
学識経験者	1																				
		<table><tr><td colspan="2">連絡調整会議 各機関担当者の数</td></tr><tr><td>九州森林管理局</td><td>3</td></tr><tr><td>宮崎森林管理署</td><td>2</td></tr><tr><td>綾森林事務所</td><td>2</td></tr><tr><td>宮崎県</td><td>2</td></tr><tr><td>綾町</td><td>5</td></tr><tr><td>日本自然保護協会</td><td>2</td></tr><tr><td>てるはの森の会</td><td>3</td></tr><tr><td>学識経験者</td><td>1</td></tr></table>		連絡調整会議 各機関担当者の数		九州森林管理局	3	宮崎森林管理署	2	綾森林事務所	2	宮崎県	2	綾町	5	日本自然保護協会	2	てるはの森の会	3	学識経験者	1
連絡調整会議 各機関担当者の数																					
九州森林管理局	3																				
宮崎森林管理署	2																				
綾森林事務所	2																				
宮崎県	2																				
綾町	5																				
日本自然保護協会	2																				
てるはの森の会	3																				
学識経験者	1																				

事業名	電波通信環境改善事業(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	2-2-②	連携先	局・県
事業概要 (目的)	千尋自然公園地域の通信環境は一部を除き、圏外となっているが、安全面や緊急時を考慮し、電波通信環境の改善について担当部署と検討を進める。		
千尋自然公園地域の通信環境の整備について検討を進めた。 2025年4月10日よりau Starlink Direct（Starlink衛星とスマートフォンが直接接続できる）サービスが開始。 （空が見える環境であれば、衛星モードで自動に切り替わり、テキストメッセージの送受信などができるようになる。） 続いてdocomoやSoftbankも本サービスの提供を開始（2026年4月～）しており、今後この機能の活用が拡大していくと見られる。 よって本事業は今年度で終了となるが、千尋自然公園地域には綾の照葉大吊橋や川中自然公園が含まれ、観光や環境教育等で人の利用が多いため、随時必要に応じて協議検討を進めていく。			

事業名	復元手法の検討(継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	2-3-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	シカ被害対策、種子の採取・播種、植栽苗の育苗等について、引続き検討を行う。 また、試行的な取組として進めているどんぐり苗の育苗について、綾小・中学校と協力しながら進める。		
綾小中学校の協力のもと、令和5年度に蒔き付けしたどんぐり苗については、生徒による水やり等の管理が継続してきた。 令和7年度は育苗している苗木を綾プロエリアの森林への植栽を実施した。本来であれば、復元モデル地区に植栽してもらう予定だったが、生徒さんの身体への負担、安全面も考慮し、川中キャンプ場近くで記念植樹を実施した。 児童・生徒は、これまでの取組を振り返りながら、1人1本ずつ思いを込めて植樹を行った。 ・令和7年12月17日 小学校6年生（児童13名） ・令和7年12月18日 中学校3年生（生徒10名） ・令和8年1月17日 中学校2年生（生徒11名）			
  【植樹の様子（小学校）】 【植樹の様子（中学校）】			

事業名	照葉樹林復元のためのシカ被害対策(継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	2-3-②	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	川中神社周辺及び隣接する保護エリアの国有林(人工林)において、シカの行動・生息状況把握調査を踏まえた、シカの効果的な捕獲方法の検討を行い、天然力による照葉樹林の復元を図る取組を進める。		
綾町、綾町有害鳥獣対策協議会、宮崎森林管理署におけるシカ対策協定書に基づく有害鳥獣捕獲を実施。 シカ被害対策に係る行動、及び生息状況把握調査(自動撮影カメラのデータ回収)を実施。			

事業名	人工林から照葉樹林への復元作業	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	2-4-①	連携先	—
事業概要 (目的)	保護エリアの国有林において、人工林を照葉樹林に復元するための間伐した箇所 に、試行的な取り組みとして復元モデル地区を設定。 植生モニタリング調査を継続的に実施する。		
保護エリア（2044と、と1・2041り、ぬ、ぬ2林小班）においては、令和6年度間伐を実施、このうち、2044と、と1林小班について復元モデル地区として設定し、以下の試行的な取組を実施中である。 取組事項は、①間伐実行時に区域内の母樹（広葉樹）を保残、②一部区域にシカネット（2重張り）を設置、③間伐実行前後及びシカネット内外における植生モニタリング調査を継続して実施中。 令和7年度は、綾小中学校の協力のもと、令和5年度に蒔き付けしたどんぐり苗について、復元モデル地区への植樹を実施した。 植樹箇所は、①列間伐の交点をベースに検討、②現地確認のうえ母樹が近隣に存在しないなどの条件を考慮し決定、③16箇所のポイントを設置し、1ポイント内に6本ずつ植樹。 なお、苗木は生育数が多いものを使用した。（イチイガシ・シリブカガシ・コジイ）			
  【植樹の様子】 【植樹した苗木】			

事業名	県有林造成事業(継続)	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	2-4-① 4-2-② 7-1-①	連携先	森林経営課
事業概要 (目的)	持続的な林業経営を行うエリア等において、スギ人工林の間伐を実施する。 また、森林環境教育・保健休養的利用を図ると共に、人工林の針・広混交林化を進めるエリアにおいて、獣害防除を実施する。		

※短期行動計画の内容に重複する部分があることから、2項目の事業報告を行う。

1 間伐(列状間伐) 2-4-①、4-2-②
実績無し。

2 獣害防除(忌避剤散布) 7-1-①

(1) 場 所 25世紀の森(カヤとスギの複層林)

(2) 面 積 3.23ha

(3) 時 期 12月～3月



獣害防除(忌避剤散布)



カヤ植生状況

【参考】

○対 象 獣：シカ

○薬 剤 名：コニファー水和剤
(生態系に配慮した安全な薬剤、獣類が嫌がる匂いを発する)

○散布方法：1haあたり原液12.5リットルの薬剤を、地際から1.5m高まで散布

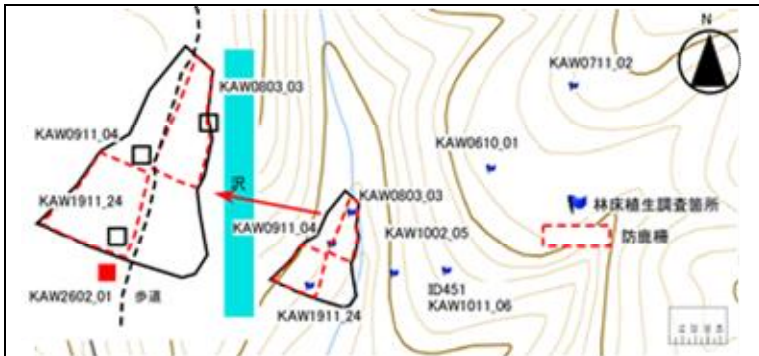
○散布回数：年2回
(餌が不足する11月～3月が適期、2回目の間隔は1か月以上空ける)

事業名	人工林から照葉樹林への復元作業(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	2-4-①	連携先	—
事業概要 (目的)	綾プロエリア内の町有林について、綾プロ計画書および綾町森林整備計画に基づき、施業計画を検討する。		
R7年5月7日@役場会議室 綾プロエリア内の町有林についてエリア区分に基づいた森林施業を実施するため、関係部署や宮崎中央森林組合と現状把握および今後の方針検討を行った。 【綾プロエリア内の町有林】 ①スギ人工林から照葉樹林へ復元するエリア：3つ（大口・百ヶ倉・小屋ヶ谷）で111ha いずれも保安林のため全伐できない可能性がある。 大口町有林・・・一部（5haくらい）搬出間伐が可能 百ヶ倉町有林（大吊橋周辺）・・・以前切り捨て間伐済（今はできない）。現事業での間伐不可。 小屋ヶ谷町有林・・・林道通行不可 ※適齢期（30～35年）になっているため、台風が来たら倒木してしまう恐れもある。 ②環境教育・セラピー的利用を目指すエリア：川中自然公園・後藤広場で5.3ha 【管理状況】 町有林の管轄：役場 財政課 整備：宮崎中央森林組合（町から委託を受け実施している） 【課題・今後】 現状、活用できる補助事業が無い。地理的条件も影響。 活用できそうな補助事業が出た際に、随時共有・検討していく。			

事業名	綾プロエリア等における鳥獣捕獲事業(継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	2-4-③	連携先	—
事業概要 (目的)	綾プロエリア内にある大森岳林道、綾南林道沿い等において、委託事業によるニホンジカの誘引捕獲を実施。		
綾町、綾町有害鳥獣対策協議会、宮崎森林管理署とのシカ対策協定書に基づく令和7年度の有害鳥獣捕獲実績は、民有林で19頭、国有林で33頭の実績となった。			

事業名	照葉樹林復元の動態モニタリング等	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画 -実施項目	2-5-②	連携先	—
事業概要 (目的)	既往のモニタリング調査結果の再整理、分析を基に該当する各プロットにおける照葉樹林への復元に関するモニタリング調査の実施。		
既往のモニタリング調査結果の再整理、分析を基に該当する各プロットにおける照葉樹林への復元に関するモニタリング調査の実施) については、災害の影響による道路の不通により調査地へのアクセスが困難な状況が続いており、実施できていない状況。			

事業名	照葉樹林復元ボランティア作業の実施	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	2-6-①	連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	保護エリアにおいて、公募等により募集しボランティア作業を実施した。		
令和5年度ボランティア作業（苗の移植）の際に、ダイワハウス職員が持ち帰り育苗していたドングリ苗について、令和8年2月5日(木) ダイワハウス工業2名が参加して川中キャンプ場近くに3本の苗を植樹した。  【植樹の様子】			

事業名	市民参加による自然林の復元調査(継続)及び自然林の調査(継続)	実施主体	NACS-J
項目-行動計画- 実施項目	3-4-①	連携先	綾町 てるはの森の会 九州森林管理局
事業概要 (目的)	11月、2月にボランティア間伐事業に合わせて林床植生調査を実施。温湿度データロガー設置及び回収(1月)。その他必要となる調査等。綾町における環境教育の取り組み状況の把握(通年)。綾町生物多様性地域戦略の見直し。		
調査箇所 2045林班に4小班内における防鹿柵内(KAW1911_24)のプロットとそこに隣接する二次林内に設置された新規プロット(対照区)である(図1)。2045林班に4小班は、水源涵養保安林に指定され、スギとヒノキが植栽されている。対象地は現在41年生のスギ林であり、2016年にボランティア間伐と2019年度に事業者による列状間伐が実施された(間伐率3割)。その後、2019年11月23日にボランティアによる防鹿柵が設置された(図2)。標高は220mであり、東斜面に面しており、川沿いの溪畔林と河岸段丘面に設定された。			
		調査方法 2026年2月27日林床植生調査予定だったが、雨天のため中止とした。2026年2月28日にボランティア7名の参加により川中で林床植生調査を行った。2019年に間伐、防鹿柵の設置、モニタリング調査を同時に開始した。防鹿柵内7年目の再調査及び隣接する自然林に新たなプロットを設置し調査を行った。防鹿柵については、ロープが途中で切断している箇所もあった。	
図1 調査箇所の位置図 防鹿柵内(KAW1911)と二次林内(KAW2602)			
			
写真1 2019年11月23日の林床の様子 防鹿柵を設置した日に調査を実施した。矢印は同じ個体を示す。防鹿柵内(KAW1911)		写真2 2025年10月7日の林床の様子 防鹿柵設置後6年目の植生の回復状況	

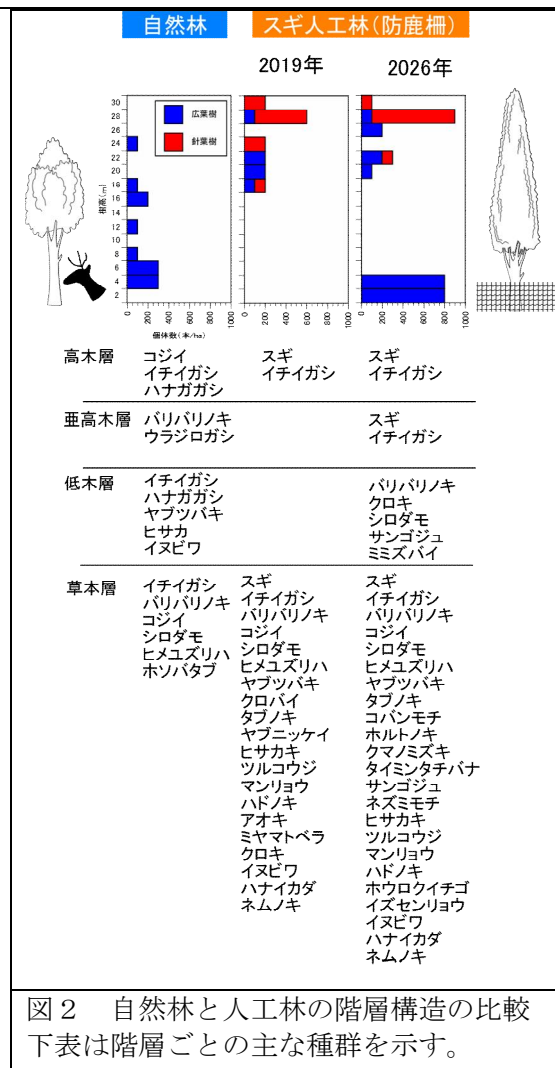


図2 自然林と人工林の階層構造の比較
下表は階層ごとの主な種群を示す。

2019年のスギ人工林の階層構造をみると林冠部までイチイガシが達していることがわかった(図3)。イチイガシは、広葉樹の復元の際の母樹として種子源となりうると考えられた。草本層には、イチイガシの実生が8個体みられた。隣接する母樹からと考えられるコジイの実生も1個体見られた。バリバリノキ、タブノキ、シロダモ、ヤブニッケイ、クロバイ、クロキ、ヤブツバキ、ヒサカキなど比較的多様な種群が確認された。樹高1.3m以上となる胸高以上の亜高木層、低木層に稚樹は見られなかった。

その後、2026年の調査では、草本層はクマノミズキ、タミンタチバナ、サンゴジュ、ネズミモチ、イズセンリョウが加入し、ツルコウジ、クロキ、アオキ、ミヤマトベラが消失するなど入れ替わりがみられたが、同様に重力散布型・貯食散布型のイチイガシやコジイ、鳥散布型のバリバリノキなど多様な種群が確認された。2019年には実生・稚樹は見られなかったが、樹高1.3m以上の低木層に鳥散布型のバリバリノキ、クロキ、シロダモ、サンゴジュ、ミズバイが加入した。林冠層はイチイガシとスギからなり変化がなかった。このことから、スギ人工林の列状間伐による伐採後の初期再生群落(1年～7年目)の特徴は、ニホンジカによる影響がなくても耐陰性が高い鳥散布型の種群(ハイノキ科、ヤブコウジ科、クスノキ科、ツバキ科、モッコク科)により低木層が占有されることがわかった。既往研究からニホンジカによる採食を受けるとイチイガシ、コジイ、コバンモチ、ホルトノキ、タイミンタチバナなどが採食を受けることから、現段階における不嗜好性植物であるバリバリノキ、シロダモ、ヒサカキ、ヤブツバキが生残していた(綾町2017; 2018;

2019;2020)。イチイガシやコジイは草本層に実生が見られるため、ニホンジカによる採食を受けなければ、鳥散布型の低木層がある程度形成された後に成長してくると思われる。低木層の成長や現在の伐採率ではさらに林床が暗くなり十分な光環境の改善が期待されないため、ブナ科の成長は困難であると考えられた。

事業名	森林環境教育プログラムの検討とエリア見直し（継続）	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	4－1－①	連携先	連携会議各機関
事業概要 （目的）	環境教育プログラムの検討と併せて、現行のエリア設定について見直しを行う。		
令和7年度は、現行のエリア設定について見直しは出来なかった。令和8年度に具体的見直しを検討する。			

事業名	照葉樹林に親しむイベントの開催 (継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	4-1-②	連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉樹林に親しむ散策や体験等を企画し、綾プロへの理解を深める		
① 実施日：5月11日（日） 参加者：14名 スタッフ5名 「綾の照葉樹林プロジェクト」の20周年記念イベントとして、新緑の川中の森散策を行いました。河野耕三先生（綾町）、駒田勤（綾の照葉樹林ガイド）さんの案内で、トロッコ道や製材所、住居や炭焼き窯の跡、湧水やたくさんの植物を観てまわりました。 昭和8年に綾南森林鉄道が敷設され、製材所が作られました。その周りに従業員の方が家族で住んでいて、学校もありました。石を積んで作られた住居の土台が残っていたり、陶器の破片や一升瓶などが落ちていたりして、多くの人々が住んでいたことが実感できました。			
 			
② 実施日：1月25日（日） 参加者：24名 県道26号（綾照葉大吊橋～川中自然公園）までを2グループに分かれて、綾プロ見本林（県有林・25世紀の森、町有林見本林、国有林見本林）を各担当が説明し、散策は照葉樹林ガイドの駒田勤氏と綾町河野円樹氏に案内してもらいました。 寒い日だったが、初めてのコースで県道26号は車も通らず、好評の散策となりました。			
 			

事業名	遊歩道整備ボランティア作業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目－行動計画－ 実施事項	4—2—②	連携先	宮崎県
事業概要 (目的)	照葉樹林トレッキングコースとして、歩道の整備や看板の整備等をボランティア と行い、新たな散策ルートとして活用する。		
県有林遊歩道整備作業は、実施できていない。			

事業名	環境学習事業 照葉樹林ガイドボランティア事業補助 (継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	4-3-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	大吊橋周辺遊歩道などで照葉樹林の貴重さや綾プロを普及させるため、照葉樹林ガイドボランティア実践活動やガイド養成を行う。		

① 照葉樹林ガイドボランティア実践活動

令和4年の台風で通行止めになっていた吊り橋遊歩道は通行可能になったが、舗道の土が雨で洗われ、大変歩きにくくなっているため、大吊り橋往復と川中自然公園イチイガシ巨木までを組み合わせた案内を実施中。川中自然公園の道は平たんで歩きやすく、好評です。

○照葉樹林ボランティアガイド 14組 157名を案内

NO	日程	曜日	来訪者名(団体名・ツアー名等)	主催者名	主催者所在地	ガイド数	参加者数
1	6月1日	月	愛媛大学考古学研究室OB会		愛媛県	1	12
2	7月20日	月	個人客		大阪府		
3	8月28日	木	個人客		広島県	1	1
4	8月30日	土	UZゼンセン宮崎県支部		宮崎県	3	15
5	9月18日	木	自然体験フィールドワーク	早川農園	宮崎県	2	32
6	11月11日	火	関東弁護士会環境部会	市民の法律事務所	千葉市	3	7
7	11月25日	火	個人客		北海道	2	3
8	11月27日	木	ネクサス	朝だ！生です旅テレビ	東京都	3	1
9	12月5日	金	ネクサス	朝だ！生です旅テレビ	東京都	3	4
10	1月20日	火	JTBクルーズガイド下見	JTB	東京都	2	14
11	2月18日	木	個人客		東京都	2	3
12	2月27日	金	学生エコツアー	門田朔	綾町	3	16
13	3月20日	金	クルーズガイド	JTB	東京都	3	31
14	3月28日	土	クルーズガイド	JTB	東京都	4	22

○照葉樹林ガイド養成講座

遠足ガイド等の一般利用がほとんどないため、クルーズガイド（吊橋大福1時間程度、通訳付き）で4名の新規ガイドが訓練中

事業名	会員情報(継続)	実施主体	てるはの森の会						
項目-行動計画- 実施項目	5－1－①	連携先	全						
事業概要 (目的)	官民協働プロジェクトを推進するため、市民参加の窓口としててるはの森の会会員へ入会を募集するほか、賛同者の寄付による参加を促す。								
○正会員数：R8.4.1現在 6名（内、理事4名） ○賛助会員数：R8.4.1現在 個人サポート会員 64件（-3） 法人サポート会員 10件（-1） 団体サポート会員 7件（+1） ○会費収入：267,000円 ○寄付金収入：160,000円 <table><tr><td>その他寄付</td><td>153,000</td></tr><tr><td>てるは大吊橋募金箱</td><td>7,000</td></tr><tr><td>計</td><td>160,000</td></tr></table> ○会員には年3回照葉樹林だよりを送付している。 ・「照葉樹林だより」71号 9月29日発行 ・綾プロ20周年報告会チラシ 12月14日送付 ・「照葉樹林だより」72号 1月6日発行 ・「照葉樹林だより」73号 3月27日発行				その他寄付	153,000	てるは大吊橋募金箱	7,000	計	160,000
その他寄付	153,000								
てるは大吊橋募金箱	7,000								
計	160,000								

事業名	普及啓発事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画 -実施項目	5-1-③、④	連携先	全
事業概要 (目的)	ホームページの更新やニュースレターの発行、イベントでの展示ブース出展等の広報活動を行なう。ホームページ上にて報告書を掲載。		

○広報誌

広報誌「照葉樹林だより」を3号編集、発行し、会員、関係機関、今まで関わった研究者等に送付した。国立国会図書館にも送付している。

○てるはの森の会のホームページ <http://teruhanomori.jp/>



○てるはの森の会 facebook での情報発信

○視察対応 1 件

○綾プロ報告書の公開

当会 HP <http://teruhanomori.jp/>

九州森林管理局 HP [jigyohoukokusyo-14.pdf \(maff.go.jp\)](http://jigyohoukokusyo-14.pdf(maff.go.jp))

綾ユネスコエコパークセンターHP <https://ayabrcenter.jp/unescoecopark/project/>

事業名	ホームページ等による情報発信	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	5－1－④	連携先	—
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトでの取組について、最新情報に更新。		

下記ホームページにおいて、啓発を図っている。

リンク先：<https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/aya/index.html>



綾の照葉樹林

綾の照葉樹林プロジェクトとは

照葉樹林への復元

これまでの取組

事業報告書

事業名	綾プロ20周年事業の計画（継続）	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	5-1-⑤	連携先	連携会議各機関
事業概要 （目的）	綾プロ20周年記念事業を実施		

綾プロは、令和7年5月で20年目を迎え、関係機関が連携し以下の取組を実施した。

【記念報告会】

令和8年1月24日に綾町公民館文化ホールにおいて、報告会を開催し、これまでの取組における成果と課題の報告。ネイチャーポジティブに関する基調講演や今後の綾プロの方向性について、パネルディスカッション等を行い、綾町内外から約200人が参加した。

【森の散策会】

記念報告会の翌日25日に、照葉樹林ウォークと題して、照葉樹林の復元過程を見るイベントに県内外から約30名が参加した。参加された方々からは、今まで行ったことがなく、こういう機会じゃないと行けなかった、綾プロの取組も大変勉強になったなどの感想があり、実際に取組の現場を見ていただき、綾プロの活動を学んでいただく機会となった。

【記念誌】

これまでの取組等をまとめた記念誌として、外部向けの概要版を作成し、記念報告会では来場者へ配布を行い、普及、啓発に努めた。



【記念報告会の様子】



【森の散策会の様子】

事業名	事業説明会の開催（継続）	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	5－1－⑥	連携先	連携会議各機関
事業概要 （目的）	綾町民等を対象に綾プロの普及啓発と合わせを行う。		
・令和7年度に開催された公民館大会においては、綾プロの取組の概要を会場周辺のスクリーンに映すなどして普及・啓発に努めた。			

事業名	地域づくりワーキング事業補助 (継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	6－1－①	連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	地域づくりWGは、綾プロジェクトの推進体制や当プロジェクトを活用した地域振興等に関する事項を検討し、住民参加を促すことを目的とする。		

検討会 6 回、一般ツアー1 回、スタディーツアー 1 回、下見 1 回の計 9 回を開催した。

里山散策体験ができる「大人の山学校」では、5 月 18 日に定期ツアーを実施した。10 月 9 日のツアーは、公立大学からの依頼を受け、留学生向けに実施した。

料理教室を 3 回実施し、料理本を作成、教室参加者に配布した。

また、今年度後半は、自然共生サイト「東洋紡 綾の森」の活用法の検討会を実施している。

○ワーキング委員会実施スケジュール並びに内容

	日 程	委 員 会 の 内 容	参加人数
1	R7 年 4 月 11 日(木) 19：00～21：00	・昨年度の反省・決算報告 ・今年度の計画 ツアー詳細	14 名
2	R7 年 5 月 18 日(日) 9：00～13：00	・おとなの山学校ツアー 13 名参加	9 名 町職員 1
3	R7 年 9 月 11 日(木) 19：00～21：00	・10 月 9 日の詳細について ・料理教室についての報告	9 名、 町職員 2
4	R7 年 10 月 9 日(木) 9：00～13：00	・公立大学留学生ツアー 26 名参加（通訳学生 2，引率 2）	6 名 町職員 1
5	R7 年 10 月 30 日(木) 19：00～21：00	・公立大学留学生ツアーの反省 ・料理本配布について	9 名、 町職員 2
6	R7 年 12 月 11 日(木) 19：00～21：00	・「東洋紡 綾の森」下見 イベントについて検討	9 名 町職員 3
7	R8 年 1 月 23 日(木) 19:00～21:00	・SAVE ジャパンプロジェクトについて 詳細日程	9 名 町職員 4
8	R8 年 2 月 19 日(木) 19:00～21:00	・イベント日程変更について (少雨のため)	7 名 町職員 2
9	R8 年 3 月 26 日(木) 19:00～21:00	・4 月 11 日の詳細内容 下見日程 4 月 2 日 ・決算報告	11 名 町職員 2

事業名	照葉大吊橋森の驛運営事業(継続)	実施主体	てるはの森の会・
項目-行動計画 -実施項目	6-1-②	連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉大吊橋食堂跡地において、「てるは森の驛」(1F:無料休憩所、2F:木のおもちゃで遊べる木育体験コーナー、3F:飲食物を提供する軽食堂)を運営する。		

3F「てるは森の驛」は日曜、連休のみの開館となった

○3F: 飲食物を提供する軽食堂「てるは森の驛」 ○2F: 木育広場として活用



食堂のようす



木育広場

○1F:料金所要望により、店舗空きスペースへパネルを移動した。

綾プロ10周年記念看板は、20周年に文字を修正し、報告会で再利用した。

1Fの綾の紹介ビデオは、故障したままで、放映できない状態のままである。



事業名	綾町森林づくりビジョン策定(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	6-2-①	連携先	局・県
事業概要 (目的)	綾町の森林・林業が綾ユネスコエコパークの推進にふさわしいものとなるよう、綾森林整備計画と関連付けて策定を行う。		
綾町森林（もり）づくりビジョン策定 綾町森林林業検討会（綾町、宮崎中央森林組合、中部農林振興局、宮崎森林管理署）において従前のビジョン案を一新する方向で協議を進めてきたところだが、綾町森林整備計画との内容の整合性や関連性を踏まえ、綾町内部でビジョン策定について再度検討を行った。 綾町森林林業検討会は令和7年度は協議が行われなかった。			

事業名	綾町森林・林業関係検討会「綾プロ 自然と共生する地域づくり支援事業」	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	6－3－①	連携先	綾町 宮崎県
事業概要 (目的)	綾プロの保全管理計画との連携の中で、綾町の森林・林業の現状、課題等について関係者による検討を重ね、その解決に向けて具体的な取り組みを協議する。		
令和7年度においては、関係機関による会議を実施し、綾町の森林・林業の現状、課題等について、情報共有を行い、綾プロの復元等各種取組との連携を図るための検討を行った。			

事業名	ユネスコエコパークとの連携(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	6-3-①	連携先	各機関
事業概要 (目的)	綾プロエリアが綾BRエリアの核心地域地域及び緩衝地域にあたることから、綾BRと連携することで綾プロの認知度を高め、活動を活性化を図る。		

■綾ユネスコエコパーク推進の根幹となる協議会等の運営

綾BR専門委員会では各事業の進捗状況の報告、大学研究機関との連携事業の報告、ユネスコへの定期報告等について協議した。

R7年

- 5月29日 まちづくりネットワーク総会
- 7月30日 まちづくりネットワーク定例会
- 12月 7日 照葉樹林クリーンアッププロジェクト
まちづくりネットワーク交流会

R8年

- 3月10日 綾BR専門委員会

綾BR地域連携協議会および運営委員会は実施なし。



〈 R8.3.10 綾BR専門委員会 〉

■綾ユネスコエコパークエリア内における生物多様性に関わる基礎調査の実施

宮崎大学及び京都府立大学と連携して綾北川・綾南川流域の森林及び移行地域で野生動植物調査を実施した。(カメ・小型哺乳類・植物・昆虫)

◎日本甲虫学会が2023年～24年に綾町で調査した報告書を発行。

→地域甲虫自然史第8号「宮崎県綾 ユネスコエコパーク 調査観察例会 2023・24報告」
667種2360点のデータを掲載。

◎京都府立大学平山教授の研究により昆虫の未記載種を発見。

→2025年11月国際学術誌Entomological Scienceに掲載。

■綾ユネスコエコパーク年間活動

令和7年度 活動実績 212日、201件 * () 内は綾プロ関連の件数

1. 視察・外部対応 60件 (5件)
2. 主催イベント・講座等の開催 46件 (5件)
3. 他者主催イベント等への参加 1件 (0件)
4. 取材対応 3件 (1件)
5. 調査・作業 11件 (4件)
6. 会議・打ち合わせ等 80件 (27件)

事業名	綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援(継続)	実施主体	NACS-J
項目-行動計画-実施項目	6-3-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	地域連携協議会、専門委員会へ出席し、国内外の情報を活用してよい方向に進むようアドバイスを行う。綾BR定期報告作成に向けた支援及び情報収集等を行う。		
ニュースレター 浅岡永理 (2025) 持続可能な開発のための教育 (ESD) から広がる、学校と地域の新しい実践.照葉樹林だより72号:2-5. 朱宮丈晴 (2025) 綾の照葉樹林プロジェクトにおける市民参加の林床植生調査 防鹿柵×自然林からの距離の効果に注目して～2015-2024年度の10年間の調査から～.照葉樹林だより72号:6-7. 論文 浅岡永理 (2025) ユネスコスクールの中・高等学校における生物多様性に関する教育活動の分析・考察 .日本科学教育学会研究会研究報告 39(4) 97-100 2025年3月. 浅岡 永理, 小玉 敏也 (2024) 単独自治体型ユネスコエコパークにおけるESDの促進要因 環境教育 34(1) 1_38-52. 浅岡永理, 小玉敏也 (2024) ユネスコスクールでの「生物多様性」に関する教育の分析 日本環境教育学会関東支部年報 (18) 9-14. 報告書 ・ 令和7年度業務委託報告書綾生物多様性地域戦略実施計画支援業務、綾町、業務受託者：日本自然保護協会. 講演 ・ 2025年7月22日JBRN大会in東京「日本MAB計画支援委員会の活動紹介」 ・ 2025年11月11日「企業等と連携した生物多様性保全の取組」、林野庁森林技術総合研修所主催 開催 ・ 2026年3月23日日本MAB計画支援委員会総会 委員会 ・ 2026年3月10日綾BR専門委員会（綾町） ・ 2026年3月27日綾BR地域連携協議会（綾町）			

事業名	生物多様性に配慮した施業の実施	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	7-1-①	連携先	—
事業概要 (目的)	生物多様性保存に配慮した森林整備を実施する。		
令和7年度においては、具体的な取り組みは実施していない。			

様式 2

事業名	綾生物多様性地域戦略 実践支援事業(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	7-2-②	連携先	NACS-J
事業概要 (目的)	綾プロエリア内の林床植生調査や綾生物多様性地域戦略の内容を実際に実施していくための綾町内での活動を日本自然保護協会に委託している。		

〈 令和7年度 業務委託報告書より抜粋 〉

■綾プロエリア内林床植生調査

目 的：間伐後の自然林復元状況を把握すること。
市民参加による調査を実施することで復元状況を市民に直接知ってもらい関心をもってもらうことを目的とする。

参加者：令和8年2月28日 7名

場 所：国有林2045林班に4小班内および隣接地（対照地）照葉樹二次林 各1プロット
↑水源涵養保安林、41年生スギ林
2016年ボランティアによる間伐→2019年列状間伐(3割)・シカ防護柵設置(ボランティア)

考 察：

①間伐による林冠の伐開とその後の群落構造の変化
スギ人工林の列状間伐による伐採後の初期再生群落（1年目～7年目）の特徴は、ニホンジカによる影響がなくても耐陰性が高い鳥散布型の種群により低木層が占有。
低木層の成長や現在の伐採率では今後さらに林床が暗くなり十分な光環境が改善されないため、ブナ科の成長は困難であると考えられる。

②さらなる復元に向けて
伐採から7年目の現在、1.3m以上の個体数の種数は増加しているものの個体数は減少傾向。
→下層種群の樹高は4mにも達しているため、保残木の追加伐採による光環境の改善が望ましい。

通常の国有林施業であれば30年生で列状間伐し、50年生で伐期を迎える
→考えられる方法
①主伐による皆伐再造林、あるいは複層伐（主伐）による帯状伐採など強度伐採を採用する
②再度間伐実施することで10年後に伐期を延長し、長伐期施業を行う

■生物多様性地域戦略 実施支援
綾生物多様性地域戦略の改訂にあたり、改訂版を提出。

■情報収集

1. ユネスコ人間と生物圏計画及び世界生物圏保護区ネットワークに関する杭州宣言
2. 杭州戦略行動計画—ユネスコの「人間と生物圏(MAB)計画」及びその世界生物圏保護区ネットワーク（2026-2035年）—
3. 第5回世界生物圏保存地域大会報告業務完了報告書

令和7年度 社会的活動について

①綾の森に関する視察・研修・観光・学習・森づくり等対応数

A：綾プロを主な目的として対応したもの

国 別							(件数)
日本	アジア	中近東	オセアニア	欧州	アフリカ	北米	中南米
14				1			

B：綾ユネスコエコパークの一部として対応したもの

国 別							(件数)
日本	アジア	中近東	オセアニア	欧州	アフリカ	北米	中南米
32	1			1			

②新聞・メディアでの露出数（キーワード「綾プロ」、「BR」、「照葉樹林の保護復元」）

媒 体					(件数)
新聞	雑誌/書籍	テレビ	ラジオ	インターネット	
10	1	1	1		

※新聞・雑誌/書籍は綾プロ報告書掲載分をカウント

③論文、寄稿、講演、表彰の数

媒 体						(件数)
論文(※1)	論文(※2)	論文(※3)	寄稿(※4)	講演	表彰	
6		2		2		

※論文・寄稿は綾プロ報告書掲載分をカウント

(※1) 綾プロ関係者が発行者または著作者であるもの（調査報告書、事業報告、冊子含む）

(※2) 綾プロ関係者以外が研究対象として綾プロの活動を取り上げ発行・著作したもの

(※3) 綾プロ関係者以外が研究対象として綾プロフィールを取り上げ発行・著作したもの

(※4) 綾プロ関係者が他機関が発行・編集するものに依頼を受けて綾プロに関連することを執筆したもの

④各者の年間支出（てるは人件費・事業費の合計、その他4者は事業費のみ）

（単位 千円）四捨五入

九州森林管理局	宮崎県	綾町	日本自然保護協会	てるはの森の会
3,135	913	1,219	700	1,520

令和7年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧

タイトル	発行者	発行年	事務局 / 執筆者	雑誌名	種類	HP上での公開/非公開	公開しているHP名
Discovery of two specialist insects that feed on immature acorns of <i>Castanopsis cuspidata</i> (Thunb.) Schottky (Fagaceae) and their importance in acorn production (ブナ科コジイの未熟なドングリを食害する2種のスペシャリスト昆虫の発見とドングリ生産におけるその重要性)	日本昆虫学会・Willey-Blackwell	2025	平山貴美子	Entomological Science	学術誌	公開	Entomological Science
宮崎県綾 ユネスコエコパーク 調査観察例会 2023・24報告	日本甲虫学会	2025	日本甲虫学会	地域甲虫自然史 第8号	学会誌	公開	日本甲虫学会
広報あや 4月号～3月号 ユネスコエコパーク通信・コラム	綾町役場	2025～2026	綾町役場 エコパーク推進室	広報あや	広報	公開	綾ユネスコ エコパーク
ユネスコスクールの中学校・高等学校における生物多様性に関する教育活動の分析・考察	日本科学教育学会研究会	2025	浅岡永理	日本科学教育学会研究会研究報告	論文	公開	
単独自治体型ユネスコエコパークにおけるESDの促進要因	一般社団法人 日本環境教育学会	2024	浅岡 永理, 小玉 敏也	環境教育 34 (1) 1_38-52	論文	公開	
ユネスコスクールでの「生物多様性」に関する教育の分析	日本環境教育学会	2024	浅岡永理, 小玉敏也	日本環境教育学会関東支部年報 (18) 9-14.	論文	公開	
令和7年度業務委託報告書綾生物多様性地域戦略実施計画支援業務、綾町、業務受託者：日本自然保護協会。	綾町	2026	日本自然保護協会		報告書		
持続可能な開発のための教育 (ESD) から広がる、学校と地域の新しい実践。	てるはの森の会	2025	浅岡永理	照葉樹林だより72号:2-5.	会報誌		
綾の照葉樹林プロジェクトにおける市民参加の林床植生調査 防鹿柵×自然林からの距離の効果に注目して～2015～2024年度の10年間の調査から～	てるはの森の会	2025	浅岡永理	照葉樹林だより72号:6-7.	会報誌		
照葉樹林だより第71号～73号	(一社) てるはの森の会	2025～2026	(一社) てるはの森の会		会報	公開	てるはの森の会

令和7年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連新聞記事

掲載日	新聞社名	掲載内容
2025. 5. 4	宮日新聞	陽光に若葉輝く 綾の照葉樹林
2025. 5. 24	宮日新聞	里山の暮らし体感 綾「おとなの山学校」13人参加
2025. 5. 29	宮日新聞	環境保全へ協定書 綾町とカネボウ化粧品
2025. 7. 5	宮日新聞	環境保全支援 綾町へ寄付金 イオン九州
2025. 11. 26	宮日新聞	照葉樹林保護へ提案 綾小中学生が子ども議会
2025. 12. 13	宮日新聞	「綾の自然守る」 住民ら清掃活動
2025. 12. 22	宮日新聞	ドングリ苗木 大きく育て 照葉樹林保護へ 綾の小中学生植樹
2026. 1. 30	宮日新聞	綾の照葉樹林プロジェクト20周年記念 自然と共生思い新た 基調講演や活動紹介
2026. 3. 6	宮日新聞	学生17人里山暮らし体感 綾エコパークで学習会
2026. 3. 28	宮日新聞	綾の森「キノコの宝庫」 県博物館副館長が魅力解説



綾の照葉樹林 プロジェクト

発行：令和8年8月

発行者：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 連携会議

編集：九州森林管理局

お問い合わせ先：九州森林管理局 計画課

〒860-0081 熊本県熊本市西区京町本丁 2-7

TEL:096-328-3612

ホームページ: <https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/index.html>